

テニス専門部

専門部長 山下 昭憲

専門委員長 小林 正雄

本年度の行事も無事終了できましたことは、県高体連事務局・専門部各委員並びに各学校顧問の先生方のご協力のお陰であり、深く感謝申し上げます。さらに佐賀県テニス協会の方々のご尽力により、テニスの選手強化・指導者講習会・普及活動等の機会を設けていただき、心よりお礼申し上げます。

この1年間のテニス専門部の活動のうち新人大会(平成26年度)及び県高校総体の概要は次のとおりでした。

◎県高校新人大会(参加校・参加人数)

団体	男子22校	女子18校
個人戦	男子シングルス	118名
	ダブルス	80組
	女子シングルス	101名
	ダブルス	66組

◎県高校総体(参加校・参加人数)

団体	男子26校	女子22校
個人戦	男子シングルス	121名
	ダブルス	83組
	女子シングルス	102名
	ダブルス	69組

☆前年度の新人大会では、男子団体戦は、第1シードの龍谷高校が圧倒的な力を発揮し、14年連続20回目の優勝を果たした。一方、第2シードの致遠館高校が順当に勝ち上がり、6年連続の九州大会出場を決めた。第3位には弘学館高校、鳥栖高校が入賞した。

女子団体戦では、第2シードの佐賀商業高校が決勝での熱戦を制し2年ぶり4回目の団体優勝を果たした。第2位には、第1シードの鳥栖商業高校が順当に勝ち上がり2年ぶりの九州大会出場を決めた。第3位には致遠館高校、武雄高校が入賞した。

個人戦男子は、シングルスでは、第1シードの小峰良太(龍谷)が決勝で第2シードの岡崎勇都(龍谷)との接戦を制し、優勝を果たした。第2位には、岡崎勇都(龍谷)、第3位には友枝健(早佐)、財前達担(龍谷)が入賞した。ダブルスでは、第1シードの小

峰・岡崎組(龍谷)が確実な試合展開で優勝した。第2位には財前・馬場組(龍谷)、第3位には田口・山口組(致遠)、下村・大隈組(龍谷)が入賞した。

個人戦女子は、シングルスでは、第2シードの佐藤成美(鳥商)が準決勝、決勝での接戦を制し、優勝を果たした。2位は高祖真美華(佐商)、第3位には北村千紘(致遠)、白武七海(鳥商)が入賞した。ダブルスでは、第1シードの北村・福母組(致遠)が決勝での接戦を制し、優勝を果たした。2位には佐藤・白武(鳥商)、3位には高祖・南組(佐商)、中島・姉川(鳥商)が入賞した。

☆本年度の高校総体は男子団体戦では、群を抜いた力をもつ龍谷高校が、15年連続21度目の団体優勝を果たした。全試合で1ポイントも落とさず、圧倒的な強さを発揮した。一方準優勝は、第2シードの致遠館高校が勝ち上がり、2年連続となる九州大会出場を決めた。第3位には弘学館高校、鹿島高校が入賞した。

女子団体戦では、第2シードの佐賀商業高校が、決勝での接戦を制し、12年ぶり2回目の優勝を果たした。一方準優勝は、第2シードの鳥栖商業高校が第2代表決定戦で致遠館高校を振り切り、九州大会出場を決めた。第3位には致遠館高校・武雄高校が入賞した。

個人戦男子は、シングルスでは、第1シードの小峰良太(龍谷)が順当に勝ち上がり、2年連続の優勝を果たした。第2位は岡崎勇都(龍谷)が、第3位には友枝健(早佐)、原口 顕輔(致遠)が入賞した。ダブルスでは、第1シードの小峰・岡崎組(龍谷)が圧倒的な力を発揮し、3年連続の優勝を果たした。第2位には田口・山口組(龍谷)が準決勝での接戦を制し九州大会出場を決めた。第3位に下村・大隈組(鹿実)、原口・岡村組(致遠)が入賞した。

個人戦女子は、シングルスでは、佐藤成美(鳥商)が決勝での接戦を制し、2年連続となる優勝を勝ち取った。第2位には高祖真美華(佐商)が、第3位には白武七海(鳥商)、山田 芹奈(佐商)が入賞した。ダブルスでは、第1シードの佐藤・白武(鳥商)が確実な試合展開で、優勝をおさめた。第2位には高祖・南組(佐商)が、第3位には北村・福母組(致遠)、山田・松尾組(佐商)が入賞した。